

3 部活動を再開して1か月（7月）：軌道に乗ってきた吹奏楽活動の留意点

（1）活動時の新型コロナウイルス感染防止対策を見直し、強化していく。

- ① 練習開始時・終了時の手洗いを徹底する。また、手洗い場が密にならないように工夫する。
 - ② 準備・片付け時、移動時等の3密を回避するよう工夫をする。
 - ◎ 楽器置場で部員が密集することを回避するとともに、部員同士の会話を禁止する。
 - ◎ 部員の移動時における廊下や階段の密集を回避する。一方通行などの工夫をする。
 - ◎ トイレの使用の仕方の徹底や清掃方法の指導をする。
 - ③ バズィング練習やマウスピースや頭部管のみの練習時に、飛沫の拡散防止対策を行う。
 - ④ 楽器・ステック等の共有を避ける手だてやマウスピース等の消毒の徹底を行う。
 - ⑤ 譜面台・メトロノーム・チューナー等は可能な限り個人で使用し、清拭消毒を行う。
 - ⑥ つば受け皿やスワブ等について、練習時・練習後の処理の仕方を注意する。
 - ⑦ 使用した部屋の消毒作業は、原則として顧問・指導者が行う。
 - ⑧ 他者と共有する物品やドアノブなど、手が触れる場所を顧問・指導者が清拭消毒する。
- ☆ 定期的に短時間のミーティングを開催し、取組についての振り返りや見直しを行う。

（2）これまでの3密（密閉・密集・密接）を避ける練習方法を見直し、レベルアップさせる。

☆ 段階的に練習形態を変化させる。

個人練習 → デュオ練習 → パート練習やアンサンブル練習

→ 少人数の合奏練習 → 徐々に合奏練習の人数を増やす

- ① 個人練習を強化する。各楽器の教則本（エチュード）による個々のレベルアップを図る。
 - ◎ 練習再開時に取り組んだ個人練習のレベルアップを図る。

再開当時の個人練習は、個々のレベルを学校休業前の状態に回復させることが主眼であったが、この時期はエチュード等を使用して各自の音色や技能の向上を目指す。

※ ホームページで配信されている、楽器別レッスン動画や指導者用動画を参考にする。
 - ◎ 部内でソロ発表会を開催し、個人練習の成果を発表する場を設ける。
 - ◎ 愛知県吹奏楽連盟主催「動画による ニュースタイル・ソロコンテスト」に出場する。
- ② デュオ練習および2名～8名程度のパート練習やアンサンブル練習を行う。＜7月＞

教室や廊下で原則として2m以上の間隔を確保して、対面せずに練習を行う。

リーダーに練習場所や具体的な練習方法を指示する。

※ 部員同士で工夫して進めることも大切である。

 - ◎ デュオ練習（2名による、教則本を使用したユニゾン練習やハーモニー練習）

音色・音型をそろえる練習、バランス練習、ブレンド練習等を行う。

◎ パート練習

教則本を使用してユニゾン練習，ハーモニー練習，音色・音型をそろえる練習，バランス練習，ブレンド練習等をパート全員で行う。

◎ アンサンブル練習

アンサンブルコンテスト出場を見据え，アンサンブルの練習を開始する。基本練習にじっくりと取り組み，質の向上を図る。また，アンサンブル練習の成果を発表するための，校内アンサンブル発表会を行う。

③ 少人数の合奏から全員での合奏へ段階的に移行する。〈8～9月〉

◎ 少人数での合奏練習（部員をいくつかのグループに分けて10～15名程度で合奏する）

普段の合奏室に，原則として2m以上の間隔を確保し，飛沫感染防止対策を実施した上で合奏する。特に指揮者による飛沫拡散防止に配慮する。

◎ 徐々に合奏練習の人数を増やす

練習場を体育館のような広い空間や野外に設定し，2m以上の間隔を確保して飛沫感染防止対策を実施しながら合奏練習をする。

（3）新型コロナウイルス感染防止策を実施しながら，目標となるようなイベントを開催する。

① 校内や，近隣の学校と合同で発表する場を設定する。

◎ 合奏が実施できないときは，ソロ発表会や十分な間隔を確保した上でのアンサンブル発表会など，工夫した発表の場を設定する。

◎ 感染防止対策を十分に実践し，保護者の理解を図る。

※ 「イベント開催のための新型コロナウイルス感染防止策（例）」を参考にする。

② 状況が整えば，外部の発表の場（愛知県吹奏楽連盟主催事業等）に参加する。

◎ 事前に学校長等に十分な説明を行うとともに，保護者の理解と応援を得る。

◎ 他の指導者と情報交換を行いながら，段階を踏んで慎重に実施する。

【加盟団体の顧問・指導者の皆様へ】 ～愛知県吹奏楽連盟からのメッセージ～

7月中旬から，全国の新型コロナウイルス感染症患者が一気に増加してきました。東京・新宿では劇場クラスターが発生し，主催者や劇場側の感染防止対策のずさんさ（ソーシャルディスタンスや換気の不足等，密集・密閉・密接への対策不備）が大きな問題になっています。

私たち吹奏楽指導者はこの事案を教訓とし，緩みがちになっている感染防止対策や性急に進めてしまっている合奏練習等を見直さなければなりません。今一度，顧問・指導者と部員がともに新型コロナウイルス感染拡大防止対策への意識を高め，慎重に活動していきましょう。